

奈々子 report



大山奈々子レポート《発行：日本共産党港北区委員会 樽町1-24-36 ☎045-543-4138 2018年9月
第2回定例会

共産党の代表質問で

(知は知事答弁)

●中学校給食実施率100%を。

県内の実施率は全国最低の28%弱。
市長会から要望が出ている施設整備補助
を実施し、市町村支援を。

知→経費負担は市町村。県は情報提供。

●すべての保育士の賃上げ補助を。

待機児童・保育士不足解消のため
にも、キャリアを問わず、すべての
の保育士の賃金引き上げを。



知→国が取り組むべき。国に要望する。

●不足している県営住宅の増設を。

建て替えや修繕だけではなく、増設に取
り組むべき。入居資格も60才未満の単
身者を含む住宅困窮者にも拡充を。

知→増設や拡充は考えていない。

●防災訓練でオスプレイの使用拒否を。

米軍から言及されているビッグレスキュー
でのオスプレイの使用は拒否を。

知→地元市町村と慎重に検討する。

給食は大阪府が、保育士は東京都が
取り組んできたことです。法の枠組
みを越えて、支援してはいけないと
いう法律はありませんからね。

神奈川のように、国や市町村の責
任にして、知らん顔の冷たい県政を
変えていかなければなりません。



広がった自然エネルギー

■ソーラーシェアリングは、農地の上に太陽光パ
ネルを設置し、農作物の生産を行いながら売
電収入を得ることができるもので、県は普及
に向けて耕作放棄地を活用することなどを視
野に入れています。



2017年11月 小田原かなごてソーラーシェアリング視察

■私たちは議会で普及を求めてきましたが、
2016年の5件から2020年度には100件を目
指す目標が設定されました！

■国でも3月に、共産・立憲民主・自由・社民
の4野党共同で原発ゼロ基本法案を提出して
います。原発ゼロを掲げた法案は国政史上初
です。安心のエネルギーの普及を！

政務活動費の透明性を



■政務活動費に関する請願が議会運営委員会
に4件提出されました。「政務活動費の領
収書等の県議会ホームページでの公開を求
める請願」、他3件はいずれも「政務活動
費の指針の見直しについての請願」です。

○支出伝票に使用した議員名を記載する
○広報広聴用の印刷物は支出伝票に添付
して提出する

○タクシーの利用区間等の記載に活動の
内容と概要を記載する、等

■ごく常識的な規定がないことが問題なの
で、私たちは「採択」を主張しましたが、
他の会派はみな「継続審査」としました。

■血税の使い道を明らかにするよう、議会改
革に取り組んでいきます。

憲法9条改悪 NO!

「弾ける歓声！癒しの水辺」をいつまでも



最寄駅は東横線の白楽駅。緑豊かな公園、篠原園地の中に「篠原園地プール」があります。篠原プールは水深が浅く、毎年保育園や幼稚園の子どもたち、放課後デイサービスの子らが水遊びを楽しんでいます。無料で利用でき、昨年は延べ4千人の利用がありました。

ところがこの6月、プールを管理する横浜川崎治水事務所から「今年度限りで廃止される」と報告を受けました。開設されて50年が経ち、老朽化が激しく、改修には約2億円(注)の費用がかかる。利用期間が2カ月しかない。費用対効果を考えると改修は難しい…と。

『夏に子どもたちが笑顔で遊べる場所があるなら、その笑顔こそが「効果」ですよ。2億円かけて改修するべきではありませんか』と意見を伝えました。

周辺に横浜市立プールもあると紹介されましたが、市としてもプールや野外活動施設は、集約化や廃止の方針が示されています。

市も県も、住民サービスを削って、首長の進める企業誘致や不要不急の大型公共工事に税金を投入しているのが実情です。県は毎年、予算編成の時は財政難を強調しますが、決算時には“不思議と”黒字になります。2017年度決算も50億円超の黒字見込みです。



公園ボランティアの方やご近所にお住まいの方、保育園関係者など、港北区、神奈川区のみなさんにご意見を聞いて回りました。プール運営に回していたお金で周辺の園地を保全するとの説明を県から受けたため、やむなしという声もありますが、利用団体からは存続を求める切実な声があり、保育園など10団体の方から連名で陳情も出されています。障がいのある子たちに安心して遊べる水場は得難いものだったということです。

プールか園地かの二者択一で県民にあきらめを迫るのではなく、収益だけでは測れない価値を守るために県政は機能するべきで、私も力を尽くしたいと思います。

タウンニュース8月30日号
港北区版より転載

(注) 県の2018年度一般会計
予算は1兆8328億円、
2億円はそのわずか
0.0109%

■0.0109%とは「100万円に対して109円」。100万円も持っている人が、子どものための109円の支出で「費用対効果」を考える“冷たさ”。予備費(5億円)だけで対応可能。

■「費用対効果」を言うなら、効果が測定できず市町村からの要望も全くない未病産業推進事業を含む、知事肝いりの「ヘルスケア・ニューフロンティア推進事業」への支出(2017年度12億7千万円、2018年度9億8千万円)は、その根拠をどう説明するのでしょうか。

記者メモ

高齢者、子育て、災害——。日本には様々な考えるべき社会問題がある。では港北区では何が起きているの?区内での現状を、体当たりで調査します。

Vol.4 子どもの遊び場廃止に嘆きの声

「ニタイム」に通う障がい児たちも、同プールを利用。その際、篠原台町に住む中村ちひろさんや関口直美さんをはじめ、地域の有志で入水支援のボランティアを行っており、彼女らもまた廃止の悲しみを語る。

子どもの成長の場

篠原台町の住宅街にある緑豊かな篠原園地。園内にある「篠原園地プール」は50年以上親しまれてきた。しかし老朽化のため、今年の9月2日をもって運営を廃止することを県が発表。残念がる声があがっている。神奈川区は六角橋にある放課後デイサービスエ

ボランティア活動はもとも同プールの利用者を増やそうという動きから始まった。プールがなくなってしまうかもという話が上がっていたことから、近隣の幼稚園・保育園などに声をかけ、利用を促していた。そのなかで同施設とつながりを持ち、プール利用時のサポートをすることになったのが3年前の話。周りに住む障がい者や近隣の学校に通う学生などが参加する。子どもたちは水遊びが大好き。浮き輪で浮かんだり、「何秒潜れるかな?」と挑戦してみたりと楽しんでいた。元体育指導員の田中照久さんは「褒められたくて頑張っちゃう子もいて、同じ目線に立ちながら、一緒に話して挑戦するんです」と話す。子どもたちにとってこのプールは、遊びながら自然と成長できる場でもあるというわけだ。「障がいのある子どもたちが気軽に安心して遊べるプールってあまりないの」と話すのは中村さん。混みがあるように感じた。

